

式 辞

能登半島地震発生から本日で2か月となりました。あらためて犠牲になられた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

1月1日の地震を機に、私たちの生活は一変し大変厳しい状況に置かれていましたが、本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席並びに、1・2年生全員が4年ぶりに出席する中、「第76回卒業証書授与式」を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました193名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様におかれましては、お子様がこの晴れの日を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げますとともに、今日までのご支援・ご協力に教職員一同、厚く御礼を申し上げます。

卒業生の皆さんの高校生活は感染症対策を長く求められ、ようやく明るい兆しが見えてきた矢先に被災し、全く予想もしないものになりました。心身ともに大きく成長し、将来の礎を築いていく貴重な高校三年間を、思いっきり過ごすことが出来なかった皆さんの悔しさは計り知れません。

ただ、それにもかかわらず、発災直後から皆さんが見せてくれた行動は、前向きで力強いものでした。決して諦めていませんでした。とても誇りに思います。皆さんのその姿に、私は励まされ、次のことを教えられました。

それは「過去は変えられないが、過去を活かして、未来は変えられる」ということです。生きている限り、すべては途中経過で、終わりではありません。過去の経験を活かして、より良い世界を創造していくことができます。

皆さんは、復旧・復興のために地域の方々、全国の方々が尽力されていること、全国各地の給水車から水を頂いた時、蛇口から水が出た時の喜びを知っています。そのような皆さんが築く未来は、必ずや「優しく力強いもの」になるはずです。

4月から皆さんは新たな世界に入っていきます。そこで、能登出身ということから励ましの声をかけられることでしょう。その出会いを大切にしてください。一人で出来ることは限られています。決して一人で無理せず、時には誰かを頼ってください。すでに皆さんには、七尾高校で出会った同期生、たくさんの同窓生がいます。それに加えて、新たに出会う方々とつながることで想像以上のことが出来るようになるはずです。

皆さんが付けている桜のコサージュは「七尾高校支援する会」から贈られたものです。同窓会・PTAと全国の皆様が、卒業生の皆さんの門出を心からお祝いし応援しています。

様々な問題があらわれた能登半島地震からの復興を考えることは日本の未来を考えることになると言われています。ぜひ、七尾高校で培った世の中の課題を見つけ、その解決に向けて探究する力を発揮して、継承と発展の双方を踏まえた新たな社会を築いてくれることを期待します。

最後になりますが、新年を迎えてから2か月、ようやく一堂に会することができました。この卒業式で、最後のホームルームで、あるいは部活動の集まりで皆と過ごし、語り合い、今日一日が皆さんにとって思い出深いものとなること、そして、皆さんの前途に幸多かれと心から願い、式辞といたします。

令和6年3月1日
石川県立七尾高等学校
校長 樋上 哲也